

婦人会長様御臨席

第20回 天理教婦人会

笠岡支部総会



立教163年5月22日(月)

午前 9時00分

於：天理教笠岡大教会

神殿正面階段前集合写真

参拝場内写真

上 おつとめまなびをつとめ終え、神殿正面にて記念撮影

下 三方の障子を取り外し、参拝者で埋め尽くされた参拝場

特
集

かさおか

発行所

天理教笠岡大教会

かさおか編集掛
笠岡市用之江377

郵便番号714-0066
(0865)

電話 66-1311

笠岡大教会 創立110周年

三年千日スローガン

論達を實踐し、をの理を戴こう

本年の實踐項目

つとめに専心

百万軒にをいがけ

全教会で陽氣ぐらし講座開催

告 辞

本日ここに天理教婦人会笠岡支部
第二十回総会を盛大に開催されました
こと心よりお祝い申し上げます

皆様方には日頃からたすけ一条のみちのだい
として土地所の教会内容充実の上に精一杯
お努めいただき誠に苦勞様でございます
ます 今日まで三年千日にわたって創立
九十周年へ向けて心ひとつに育つ努力
育てる丹精を重ねられ それぞれに
教祖のよふぼくとして一歩成人の姿を

婦人会長様写真

お見せいただくことを喜ばせていただ
いております 親神様 教祖はきつと
それぞれの誠真実の心を十分にお受け取り
くださったと思わせていただきます

本日に御苦勞様でございます
今日 教祖や先輩の道中に比べれば

いかにも結構な道においていただいている
私たちではございますが こうして何の支障
もなく賑やかに集わせていただけるまで
には 親神様 教祖の御守護によるは申す
までもございせんが 数知れぬ先輩方が
婦人会創設の思召一つにおつなぎください
ました ご真実のお陰であることを深く

思わせていただく親々のご苦勞を無に
せぬよう慎みをもって報恩感謝の日々を
心掛けられることをお願い申し上げます
大かたご承知のように 私たち婦人会の
元は親神様の思召によって始められ
親神様のおさしづにお導き頂きながら
基礎が築かれてまいりました そのおさしづ
で親神様は 立教よりこれまでの事たすけ
一条にお通りくださった教祖のひながたの

道筋を互いに諭し合い 心を治めて行くよう
にと 又 もともと親神様が陽氣ぐらしの為に
拵えなされた道具には みんなそれなりに
与えられている役割があるのであってその
役目には何の隔てもない 人間が陽氣ぐらし
をするには 男と女が銘々の特性を活かして
力を合わせる事が欠かせないことをお教え
くださいました

教祖がお通り遊ばされた五十年のひながた
の道中 教祖は たすけを請うて訪ねて
くる人ばかりではなく ご家族を始め お側に
お暮らしなされた人々にも 事ある度に
もともと人間をお拵えくたされた親神様
のお心をお話し遊ばされながら どんどん
にをいかけ おたすけを遊ばしました
そして たすけっぱなしではなく 納得の
付くまで をやを信じ切れるまで相手の
歩調に合わせて心を砕き ご丹精ください
ました 子供を生み 育てるに相応しい
徳分をもつ私たちは そのひながたを
しっかりと学び そしてたどらせていただき
たいと思うのでございます 常に慎みを

もって器に相応しく育つ努力を大切に
させていたいただきたいものがございます
「ひながたをたどり陽気ぐらしの台となり
ましよう」という成人目標は言わば婦人会
の根本精神そのものでございますそして
一人一人の婦人会会員に終生かけてその
目標に一步一步近づいていただきたいと
一、原典にをやの思いを求め 日々におたすけの
喜びを味わいましょう

一、次代を担うよふぼくを育てましょう
の二点を活動方針と定めているのでございます
真柱様は創立九十周年記念第八十二回総会
で 婦人会は 青年会や 少年会の働きを
支えて陽気ぐらしを生み出す重要な役目
を担う台であると仰せられ
「会員が立派な道の台に成人して たすけ一条の
道の上で婦人でなければ成し得ないこうのう
の理を積んでもらい 末代続く道が途切れる
ことのないよう 礎を固めるつとめは誠に
重要であって 望むらくは この成人目標を
これからも掲げ続け ただ掲げるだけでなく
目標なのでありますから 会員は それを

目指して ひたすら成人の努力を重ねて
頂きたいのであります」とお述べ下さい
ました

創立九十周年の旬に一人一人が一步前進を
念じながら 活動方針の自主的な実行を
お願いして 三年千日定めるときに到り
ました が この度の取り組みはこれで終った
というようなものではありません

陽気ぐらしの台という目標に到達しようと
すればみちのだいとしてはいついつまでも
切れ目のないように続けて行かなければ
ならない態度でございます 次のお道を
受け継ぐ人材を素直に育てさせて頂く
ことは 私たちの成人に負うところが大きい
と思わねばなりません その意味でも
今日から 又 新しく努力を積み重ねて
気持ちか後ろへ下からないようににをいがけ
おたすけが日常のこととなるまでに成人
させていたいただきたいと存じます 教祖を
信じ お凭れして いつでも神一条 ぢば一条
の心で互にたすけ合って こつこつと正直に
通らせていただきますでしょう

青年会 少年会を始め 大人同士が積極的
に談じ合う機会をもって婦人会は婦人会
の立場から真剣に育成の上に心合わせて
努めさせていたいただきたいと思ひます
本日 この機会に 笠岡支部の会員一人
残らず勇み心で 一手一つに末代へつなく
心を改めて定められ 出来ても 出来なく
ても精一杯動かせていただいで 三年千日に
培った芽が この先勢いよく伸び行く
御守護を頂戴されますことを念じる次第で
ございます 真柱様の御親心に確り
お応えさせていただけるよう 親神様
教祖にお喜びいただける日々をお過ごし
ください ますことを希望致しますして
本日の挨拶とさせていただきます

立教百六十二年五月二十二日

天理教婦人会長

中山 まさ



(原文通り)

大教会長様祝辞

今日は、婦人会笠岡支部第二十回総会の開催、誠におめでとうございます。この総会に先立ち、おつとめをつとめて頂いたのですが、素晴らしいおつとめを見せて頂き、「良かったな」と喜びおつとめを見せました。先程、三年千日の活動方針の中で、「一年目におつとめにしっかりと力を入れて」と、ご発表頂きましたし、又総会に向けて何回も練習を重ねて今日の日を迎えておつとめ頂いた。「とにかくしっかりと調子を合わせ、心を合わせてつとめて欲しい」と申し上げさせて頂いて、皆さんもこの事をしっかりと受けて、本当にちゃんと揃うてつとめて頂いた。「本当

大教会長様写真

にいいおつとめやなあ」と喜ばせて頂きました。ただこれが終わりではないので、今度はこの素晴らしいおつとめを、各々の教会で、各々の委員部で出来るように丹精をしっかりとお願いしたいと思います。先程、婦人会長様からお話がございました。この成人目標「ひながたを辿り陽気ぐらしの台となりましょう」又、「次代を担う用木を育てましょう」を只単に、その事を掲げてみてもそこに理がなければ、残念ながら一生懸命つとめても、なかなか芽生えて来ない。最近、青少年非行が頻繁に起っている事は皆さん方もご承知で、又心痛めておられる事と思うのですが、その事を考えてみれば親としては、一生懸命育ててきた一つの結果である訳で、放つたらかしにして成ったのではなく、親として親心しっかりと育ててきたのにそうなっているという事を考えてみれば、そこには子供が育つ理が無い。むしろ言い換えれば、親の方に育てる理が無ければ、子供に育つ理が無いと言わざるを得ない。と考えてみた時に、子供が育つ理をもってもらう為には、親がしつ



かり育てる理をもたなければ子供にしっかりと育つて頂ける姿が無いのではないかと思うのであります。そうした時に、親として育てる理をいかにして頂くかは親々への報恩感謝、その心、行いこそが子供を育てる理であり、又子供が育つ理に繋がってくるのではないかと思うのであります。その中に、特に申し上げさせて頂いたのは、この「ひながたを辿り陽気ぐらしの台となりましょう」という事に関して、教祖のひながたとは、どんな難渋苦労の中も、明るい心、喜び一つで通り切った姿こそが、私達を陽気ぐらしへと導いて下さる、一つのひながたである、と思うのであります。私達がこの道を歩んで行く時に、一番思案しなければならぬ事は、先程の「親孝心の道を歩む」と言う事で、これが義務になつてしまつたのでは、その親の理を頂くひながたを歩むという事にはなり得ぬ事もあるのではないかと、御恩報じの道を歩ませて頂く時に、そこに喜び心をもって、一つくつとめさせて頂く事が、大切な角目にも繋がってくると思うのであります。これから益々お道が栄えて行く、又婦人会の歩みを進めて行く上

に一番大切な角目は、『喜び』その事を申し上げさせて頂きたい。その為には『笑顔』と言う事であります。今各々の家庭の中で一番足らない姿が「笑顔」の部分であります。親に笑顔が見えないからこそ、子供がだんく、荒んだ顔になってしまつて、余計非行に走つてしまう事もあると思うのであります。その日々の中で、少しでも喜びを見出す努力、又味わうという事も大切だと思つてあります。そしてその喜びをもつて日々御恩報じの道を歩ませて頂く。中には、そう出来んという方もおられるかもしれませんが、ならばむしろ今度は方向転換して、喜びを求めて御恩報じの道に歩んで行く。只単にしなければならぬからするという事ではなしに、その中に喜びをもつてする。或いは又、喜びを求めてやつて行くという事が、子供が育つて行く一つの大きな台になつてくるのでは…と思ひます。私達は素晴らしいひながたをもつていたのであります。教祖が、わざわざお通り下さつたそのひながたを心に湛えさせて頂いていくわけですから、しっかりと明るい心、その喜びの心でこれから歩んで頂いたならば、より大きな、本当に次代を担う用木を育てる事に繋がってくるのでは…と思つて次第です。『笑顔』心から本当に笑顔で歩んで頂きます事をお願い申し上げます。今日のお祝いの言葉とさせて頂きます。どうぞ笑顔でよろしくお願い致します。

〈以上要約。文責 編集部〉

支部長挨拶

天理教婦人会が創設されて90周年を迎えましたこの年に、本日婦人会長様の御臨席を賜わり、大教会長様はじめ御来賓の先生方をお迎えして、こうして盛大に婦人会笠岡支部第20回総会を開催させて頂けますことは、本当に勿体なく有難い気持ち一杯でございます。常日頃より温かくお育て下さいます、婦人会長様に、皆様方と共に御礼申し上げます。存じます。『婦人会長様、ありがとうございます。』会員の皆様、本日はようこそ婦人会総会に、お集まり下さいました。思い返しますと私は、婦人会創立80周年を終えましたこの月に、会長様より支部長の任命を頂きまして、十年を迎えさせて頂きました。右も左もわからぬ私も、前支部長様始め、委員長、会員の皆様方のお心寄せを頂き、会長様にお連れ通り頂きました。ようやく自分自身の立場の自覚もさせて頂けるような昨今にならせて頂きました。三年前に、婦人会創立90周年を前に、ようやくこまでお育て頂きました笠岡支部の姿と、委員長はじめ会員の皆様仕切つての成人の姿を、会長様に御覧頂きたいと、三年千日仕切らせて頂きました。共に成人の

歩を進めてまいりました。この間に、本会より創立90周年総会のお打ち出しを頂き、又大教会創立百周年を迎える三年千日の心定めのご発表も頂き、私達にとりましては、前からも後からもお力添え頂き、会員一人ひとりが本当に身の育つ努力に精一杯励ませて頂きましたことは、本当に勿体なく有難い限りでございます。この三年千日を通して学ばせて頂きましたことを心に、これからの日々も、親神様・教祖の目に適う道の台として、後々に続いて行く道をしつかりと通らせて頂きたいと存じます。新たな前進に向け、ただ今からお聞かせ頂きます会長様のお心をしっかりと胸に治めさせて頂き、会員揃つて門出させて頂きたいと存じます。どうぞ皆様、よろしくお願い致します。

大教会奥様写真

会務報告

只今より立教160年4月より立教163年3月までの会務報告をさせていただきます。

立教160年4月19日の婦人会本部総会におきまして「ひながたをたどり陽気ぐらしの台となりましょう」との婦人会員生涯かけての成人目標のもとに、3年後の婦人会創立90周年に向けての具体的な活動方針として「育つ努力」「育てる丹精」「一手一つの和」という3つのスローガンをお打ち出し頂きました。

そして会員ごぞつて、自らの成人した姿をご存命の教祖に御覧いただけの様な努力することをお誓いしました。

笠岡支部におきましては、このスローガンのもとにまず委員長自らが心の成人に努めて、90周年を喜びで迎えさせていただき、その勇み心で婦人会長様をお迎えしての総会をさせていただきました。こうと談じ合いを重ねました。

三年千日の1年目は、おつとめの女鳴り物に重点をおいて委員が巡回しての勉強会を実施し、また委員部に一人は調弦のできる人を育成したいと調弦の勉強会をしました。

2年目の活動としましては、「1日1回おさづけの取り次ぎを」という呼びかけのもと目安としてのイラストを全委員部に配布しました。

数で成果を競うということではなくて、一人でも多くの用木がこの旬におさづけの取り次ぎができる様にといい思いを具体化させたものでした。

おかげさまで『今までためらっていたお取り次ぎができるようになりました。』との声がよく聞かれ、また、お取り次ぎによって相手の人も自分も救けていただいた、という喜びの声も聞くことができました。

3年目の昨年は、いよいよ仕上げの年となり、この2年間の活動の成果と90周年総会への決起を兼ねて、婦人会としては初めての大掛かりな団参を計画しました。初めておぢばがえりされる方を誘って、また別席者を伴ってのおぢばがえりを、という呼びかけで、会員がそれぞれ丹精した人を伴って回廊掃除用雑巾を持参しての団参でした。当日は大雨の中でしたが、一三八委員部のうち一一九の委員部からの参加を得て千人を超える人々が各地から東礼拝場に集い、喜びのおつとめをさせていただきました。

この3年間に今日の日を心におつとめ練習会を8回持ち、また総会に向けて会員の真実を寄せていこうと『ものだね袋』を作り各委員部の実情に応じて継続的に実施しました。また、毎年6月と11月の祭典後にバザーを開催し、教区の衣料救援活動を支援しました。

委員と委員長長達は、講習会ではその年の活動方針の徹底を図り、毎月の例会では午前中は

神殿玄関に看板を取り付ける青年会員の写真

おつとめ、午後は『おさしづ』の勉強をして少しでも原典に親しむと共に、教えが日常生活の基本となるよう練りあいを重ねました。

後継者育成の面では、道の後継者としての自覚をもってほしいと教理勉強や調弦講習会、また練りあいなどをしました。

尚、結婚した若い世代の人達の成人と親睦を図るために『ひまわり会』と名づけた会を作りました。毎月例会を持ち、手作りの月報を作った活動を進めています。時には子供の数の方が

お願いつとめの写真

多いという子育て最中の母親達が、教理勉強やおつとめ練習、匂いがけに楽しんで参加する陰の支えを子育て経験豊かな担当の委員長達がひきうけています。

女子青年の活動としましては、勤めている人達が多い昨今ですが、毎月少人数ながら例会を持ち会報『つぼみ』を発行、また大教会の祭典前の神饌物洗いのひのきしんにも欠かさずつとめております。婦人会のバザーや祭典後にはコーヒー喫茶などをして喜ばれています。立教161年

総会の無事開催を祈ってのお願いつとめ

の本部女子青年大会には72名の参加で心定めには届きませんでした、一手一つになることの大切さを勉強することができました。

『こかん様に続く会』は支部長様が高校生を主体とする教会子女にじかに思いを伝え育成していく場として毎年開催しております。おつとめまなびやひのきしんなどを共にする中で、初めて参加した人が匂いがけの経験を喜んだということが意外でもありうれしいことでした。

次に会計報告等をいたします。

平成9年度 歳入 二、五一六、七〇六円

平成10年度 歳入 二、三五〇、六一二円

平成11年度 歳入 一、九一五、八一九円

平成11年度 歳出 一、五五八、七四二円

平成11年度 歳入 二、〇〇八、五三七円

平成11年度 歳出 一、八四二、四七八円

従って、一六六、〇五九円を平成12年度へ繰り越します。

尚この3年間に、常任委員5名、委員1名、

委員長16名が新たに任命されました。会員数

は、平成12年度現在 七、九三六名となっております。

折しも大教会創立110周年の旬と重なり、お打ち出しいただいた『100万軒匂いがけ』という追い風をうけて婦人会員も勇んで動かさせていただきました。

婦人会創立90周年を無事終えました。今、道の台として、教祖のひながたに照らして

日々の物事を判断し行動する姿を、身近にいる

次の世代に映していく大切さを胸に刻んで、心新たにまた歩ませていただきます。

最後に、会員の皆様のお力添えをいただき、大過なく会務を報告させていただきましたことを、厚く御礼申し上げて終わらせていただきます。

ありがとうございます。

各係をつとめ終えて

婦人会総会を振り返って

総務 上原 ぎよ礼

この度の総会を発案させて頂く上で、最も心がけて頂いたことは「理作り」。理作りの期間として、三年をかけたさせて頂いた。会員一人ひとりの理作り、委員部としての理作り、支部としての理作り。この理作りの要が「育つ努力、育てる丹精、一手一つの和」のスローガン。御臨席総会発案から、ポスター作り、おつとめ役割作り、度重なるおつとめの練習、もの種袋の実施、様々な理作りをさせて頂きながら、総会の具体的準備にかからせて頂く。総会内容はおつとめに引き続いたが、記念行事がなかなか決定出来ず、何度も話し合いを重ね、最後は本

受付の写真

会にお伺いの末、今一度話し合いをさせて頂き確定した。記念講演、模擬店、アトラクションと盛りだくさんとなった。本年三月二十二日、会長様の前日よりのお入り込みをお聞かせ頂いた。年明けより本格的な総会準備の動きとなり、三年間集めたもの種袋は二月末に終了（実際は当日まで）。90周年総会后、各係毎の責任者を芯に着々と準備は進んで行った。四月二十五日、会長様に御面会させて頂き打ち合せをさせて頂く。五月に入り来賓先生方の御招待や全体打ち

受付では記念品とパンフレットが渡された

合わせをもった。この三年間に委員長や委員部に様々と節をお見せ頂き、心の普請をさせて頂いた。係毎の打ち合せも良く出来、一手一つにまとまって働かせて頂いたと思う。総会前の大掃除にも本当に多くの方のお力を頂いた。二十一日祭典直前、会議室での大教会長様のお言葉には、居合せた婦人会委員皆心引き締めさせて頂いた。会長様の御到着時思わぬ出来事でドタバタ劇を演じてしまった

が、その夜は、女子青年達の心尽くしで和やかにお越し頂き、当日は良いお日和を頂き、順調に運ばせて頂いた。おつとめ開始直後ランとした神殿に肝を冷やし、お詫び心で始まったが、座りづとめ終了時には殿内一杯の人で感激させて頂いた。全般的にスムーズに運ばせて頂いた事で、陰ながらの多くの支えを勿体なく感じさせて頂いた。参加頂いた方にどれ程の満足をお与え出来たかはわからないが、終始会長様に御気分良くお過ごし頂いた事にひとまずホッとさせて頂いている。私達の新たな出発は始まっている。これからも一人ひとり育つ努力を重ね続け、後ろへ下がらぬ様、婦人会員生涯かけての成人目標を目指し、教会内容充実の台としてのつとめを全うさせて頂きたい。

陽気で明るくおつとめを

おつとめ係 上原 順子

教祖が、寿命を縮めてまでもお急ぎ込み下されたおつとめを、総会の最も大切な眼目として、"合わせる"練習を重ねてきました。合わせるためには、個々の鳴物や地方や手ぶりの基本的なリズムができていなければその場限りのものになるので、各委員部に、前真柱様の地方によるおつとめのテープを配布し各自がそれで合わせて練習するようにしました。婦人会だけでなく、教会で毎日のおつとめ時にそのテープの地

おつとめまなびの写真

方に合わせて手おどりを勤めていただきましたという願いもありました。

三年間に計八回のおつとめ練習のやり方については、その都度、試行錯誤を重ねて、何とか少しずつ成人させていたのだきたいと努力しましたが、参加者の顔ぶれが揃わず、不本意な回もありました。毎回自分の都合を後にして、参加された人達は、総会でのおつとめの感激も一入だったことと思います。すべて、結果をすぐ求める現代にあつて、これほど見返りのなさそう

心一つにつとめられたおつとめまなび

な行為はないように思えますが、勤めた人、又練習に参加しても当日は控えだった人、各自が後で振り返ってみた時、必ず何らかの御守護を頂いていたことがあると思います。沈んだ心が明るくなったとか、思い方が変えられるようになったとか。現に毎回、練習に参加した人が「よかったです」と云つて明かるい顔で帰られるのを見ています。

当日については大教会長様にお誉めいただいた通りです。係としては少々の心残りもありますが、全員が心を揃えて一手一つになるよう努力したことは、きつと神様もお受け取り下さったことと信じます。これを機に、大教会はじめ全部内で、より陽気で明かるいおつとめが勤められたら結構かと思えます。

準備万端大過なく

接待係 岡崎和美

婦人会長様をお迎えするに当たつて、先ず、客間の各お部屋・洗面所・お風呂などを確認し、傷んでいけば修理してもらい、汚れていけば掃除・洗濯をするという具合で、五月に入つて始まった風呂場の改修工事に並行して、カーテンや敷布などの洗濯をするなど、念入りにお迎えの準備を進めました。

続いて、お泊まりいただくためのお道具やお茶・お食事のための細々とした物の準備をさせ

玄関前接待係の写真

ていただきましたが、十八日の大掃除には、大勢の方のご協力をいただいて、客間の隅から隅までピカピカに磨き上げさせていただきました。

用意したおしぼりの数は五十枚を超え、準備万端整えたつもりでも、何か忘れていたのではとハラハラしつつ迎えた当日(二十一日)、御到着前、接待係に当たつている若い奥さんたちが、緊張してソワソワしていると、支部長様より「婦人会長様をみんなのお母さんだと思つてお接待させてもらつたらいいのよ。そんなに緊

会長様のご到着を前に緊張気味の接待係

張しないで！ お母さんと接するように……」
と緊張をほぐして下さいました。

婦人会長様は、終始にこやかにお過ごしになり、記念講演中にお茶をお持ちすると「私たちのことはいいから、お話を聴かせてもらって出で。ここは私たちに任せて……」と、懇ろに仰せくださるなど、私たちにも気さくにお声掛けくださいました。

何とか無事につとめ終え、お見送りをさせていただくと、スーツと肩の荷が降りたような心地でした。

最後に、お料理を独りで頑張ってくれた上原千枝子さん。何日も前から、食器や食材を準備され、本当にご苦労さまでした。見るだけでも素晴らしいお料理、私も食べてみたかったです。来年の創立百十周年記念祭に向けて、本当によい勉強、よい経験になりました。

夜警写真

青年会員による夜警も

明石市分教会長写真

彩りも華やかに

アトラクション係 武内正美

この度の総会で、午後の行事の係として、四名の者が決まりました。一回目の話し合いで午後の行事でなにをするか話し合い「模擬店」と「アトラクション」をする、そしてそれぞれのブロックで責任者を決め、ブロックで取り組んでいた各事になりました。

アトラクションは、福山、高屋、島根、直轄Ⅰ、直轄Ⅱ、女子青年、そして特別出演として明石市分教会長・杉原先生に出てください、一ブロックの出し物十分以内と決め、それぞれに、練習に取り組んでいただきました。

総会一ヶ月前、四月二十三日にリハーサルをし、それまでの練習を他のブロックの人達に見

プロ並みの腕を披露する 明石市分教会長 杉原さん

て頂きました。

総会当日、まずオープニングを飾ってくれたのは、女子青年によります「むつみ太鼓」です。仕事をもって集まるのもなかなか大変な中週一回午後七時から十時ごろまで練習にはげみ、見事なバチさばきで、すばらしい演技を見せてくれました。

次に福山委員部によりますお

女子青年による勇壮な「むつみ太鼓」

高屋委員部のダンス

どり「あじの開きの三度笠」、「しまなみ海道讃歌」です。

海に囲まれた福山らしく、十名の委員部長が、楽しくおどりを披露してくれました。

三番目は、高屋委員部によりますダンス「ミザルー」「パートタイムラバー」です。

手作りのスカートをはいて、七十六歳の委員部長を先頭に細い人太い人、若い人年輩の人が、楽しく軽快にダンスを披露してくれ会場内が、盛り上がりました。

舞台の上は花盛り

四番目は、特別出演の明石市の会長さんのギター演奏です。映画音楽「禁じられた遊び」、フラメンコ「マラゲーニャ」の二曲をすばらしいギターテクニクで聴かせて下さいました。

五番目は、島根委員部です。隠岐民謡「キンニヤモニヤ」を八名の委員部長がシャモジをもって踊ってくれました。島根委員部ならではの踊りでした。

そして最後に直轄委員部（直I直II合同）によります「お茶の間バラエティ」。

物議をかもした青年会員のバレエ

小さな子供から、前奥様、布教部長先生、少年会副団長さん、青年会と、多種多彩、異色の出演者で、直轄ならではのステージに、会場内爆笑の渦でした。白いバレエの衣装がクセになった青年会の方がいるとうわさになっていますが、大丈夫でしょうか。

ステージで演技のあと、客間に行き、婦人会長様の前で披露させて頂き、又一委員部ごとに、やさしく声を掛けてくださり、ほんとにうれしいうれしい有難いと、涙する委員部長もいました。

総会に向かって、一つの事をするために、それぞれの委員部が一手一つになり、総会をむかえさせて頂くことが出来、心に残る総会になった事だと思えます。

総会アトラクションに関係して下さい下さった方々に、紙面をお借りしてお礼申し上げます。

ありがとうございます。☺

皆様にご満足頂けるように

模擬店係 室 悦子

模擬店の係になった私達は、総会の前年（R162）8月より準備を進めて来ました。

1食50円前後（容器代を含む）の予算で、加入数の心定めが100人ということでしたので、1店舗100食というのは無理だから5種類の中から3種類選んでもらう様にしようか、などと話し合っていました。が、支部長様の参加して下さい

る方々全員に満足してもらいたいという親心に添わせてもらおうという事になり5種類のチケットを発行する事となりました。どの様な内容にするかいろいろと悩みましたが最終的に次の様に決定しました。

そうめん汁(直II) 弁当を食べる時、汁物があつた方が食べやすい。
でんがく(高屋)・チキンナゲット(福山)お

心尽くしの軒を並べる模擬店

弁当が寿司という事でしたので、何かおかず的な物をという考えから、でんがくは年配の方に、チキンナゲットは若い人達に喜んでもらえるのではないかと。

ぜんざい(直I)・わらびもち(島根) 女の子が多いので、食後に甘い物がほしいし、季節的に当日がかなり暑くなる場合と反対に肌寒い場合があるので、温かい物と冷たい物を考えておいた方がよい。

アメリカンドッグ(女子青年)
ビール・ジュース

模擬店の出店場所も講堂の南側にすれば、模擬店に並びつつステージも見ることが出来るとの理由で決定しました。その際、講堂のまわりの溝が危険なので青年会の力をお借りして蓋をしようことにしました。

ゴミの処理も大きな問題でした。各自で持ち帰るか大教会で処理してもらうか。誰か一人がゴミを捨てたらアツという間にそこにゴミの山が出来るのは目に見えていましたし、弁当の袋の中に缶も模擬店のトレイも一緒に入れてボンと捨てる人が多いだろうという事で、各店舗から一人ずつゴミ処理の責任者を出してもらい、ゴミ箱の横に立ってゴミの分類をってもらうことにしました。

各店舗の品を婦人会長様、随行の先生方、大教会長様に御試食していただける様、客間の方へ運ばせてもらいました。

芝生の上で食事をする参拝者の写真

準備を始めた段階では、まだまだ先の事という様な感じでしたが、試食品を持ち寄った3月頃からは、アツという間に日が過ぎ、当初予定していた100食を上回る1200食準備するという事にも対処する事が出来たのは、各店舗の責任者の方々をはじめとする、多くのひのきしん者の誠実の御協力があつたからこそだなあとつくづく感じています。
お力添えいただいた皆様本当にありがとうございます。

ツツジの見頃は少し過ぎましたが……

参加者の声

ひろおつとを運びと書かれたり

上下分教会 山野 富美子

当日は大変良いお天気に恵まれ、多勢の皆様と共に、とても楽しい一日を過しました。

私達二十人はバスで一緒に参りました。丁度大教会へ着いた時、お勤めが始まったばかりでしたので皆様を最前列の方へご案内して私ともう一人はひのきしんの会場へと急ぎました。一応の作業予定を伺っている間にも次々と懐しい人々と会うことができて話はあちこち飛び交いとっても賑やか…。又新しい人々との出会い

田中先生の写真

も次々と…。だから楽しいのよひのきしんは

そのうち婦人会長様のおことばに耳を傾けたり、時には講堂のテレビまで何度か走って行きました。せっかく参拝したのだから少しはお話も伺いたいし…。

いよいよ私達が準備した「そうめん」を参拝者の皆様に楽しんで頂く時になりました。あの方にもこの方にも喜んで食べて頂くという間に声をかけました。とても忙しくあつという間に時間が経って出発予定のバスへと走りました。

今回初めて大教会へ参拝した方が六名程一緒にしたので、その人達へ、模擬店の開店までのひのきしんの説明をしました。又帰途のバスの中で初めの方へ皆で御礼を申しました。とても陽気に豊かな気持ちでの帰路となりました。よく考えてみると、初めの参拝者をご案内すること

とはとても重要で難しい事です。つ

まり日々の行動から天理教を理解し信用していただいたうえでの結果だと思ふからです。いくら立派な事を考えても伝えてもそれが実行されなかつたならば世間の人々にはそっぽを向かれてしまいます。地道にコツコツと積み重ねていくからこそ誠実実となるでしょう。

田中先生による記念講演

今回は、私自身一人もご案内することはできませんでしたが、このことを肝に銘じた貴重な一日でもあり

ました。又私達が数時間のひのきしんを楽しんでさせていただいたのは、何日も前から準備をして下さった多勢の皆様のお陰であることを忘れてはならないと思います。感謝、感謝。

心新たに、さあもつと地域へのおいがけ、ひのきしんを頑張ろう！

足取りも軽く快い疲れと共に家路に着きました。

模範店前でたむろする男性陣の写真

御臨席総会に参加して

出雲分教会 高島藤子

このたびの大教会婦人會總會は、婦人會會長様をお迎え下さるとの事委員部でも団體をとりくませて頂きレンタカー一台と 思いを定めて、相談をさせて頂きました。委員部長さんも五人のお子さん、赤ちゃんをつれて毎日「今日は何人出来たかいね」と声をかけながら当日を迎え一同心をはげませ、中国山地をこえて参加さし

参拝者は女性ばかりじゃありません！

て頂きました。またとないこの時旬に婦人會會長様が御臨席下さる總會に参加させて頂き、有がたいことは、大きな理を頂戴させて頂き、有がたい思いやらうれしい思いで胸が一ぱいでした。こんなみぢかなところで婦人會會長様の御言葉を頂戴するのは本当に感激でした。

お言葉の中にやわらかい口調で「皆様方本当に御苦労様でございます」とこのやさしい言葉にじんとき来るものがありました。

こうした思いに浸らして頂きじっくりと自分の足下を見つめ反省をし信仰のよるこびを感じさせて頂きました。

又田中先生の御話しの中に「育つ理育てる理」この言葉が私の頭の中に強くひびきました。私も四人の子供を育てさせて頂き中の二人が信仰の無い家に嫁に行き、三人の子供のお母さん一人の子供のお母さんと、それぞれ自分の子供を育てながら毎日かくとうしている姿を見ては「あなたが台なのだからがんばってね子供を大切にしてくね」と声をかける私ですが育つ理育てる理今日のこの言葉を私自身勉強をさせて頂こうと強く思ったことでした。

委員部におきましても教會の會長様より婦人さんが一人でも二人でも教會に参拝をして勉強会をして下さいと声をかけて下さいまして、毎月の例会又ささやかな毎月のバザー又食堂は婦人さんの集るところだからときれいにしてもらい近代的にもようがえをして頂き祭典には食

堂にあつちこつちと花をかざり明るい笑い声のきこえる食堂に時には、つぎにはなにをこちそうさしてもらおうかとの声もでて来ます。台とならしていたぐく私達婦人會の雰囲気づくりと言いましようか、又このたびの總會の婦人會會長様のお言葉や田中先生のお話しをテープにおさめて部内委員部・布教所にわたして下さいました。そしてこのたびの總會に参加して思った事など話し合も出来ました。本当に委員部長さん

講堂で参拝する子連れの會員たち

の心くばりにはうれしく思いました。最後にこのたびの総会の総まとめをして下さいました役員の方のすばらしいまとめの言葉に団体一同感銘をいたしました。本当に御苦勞様でございました有がとうございました。私がやらなきゃだれがやると気合を入れて明るい天理教婦人会であることを一同心を一つにした思いでした。

婦人会の裏方ひのきしん

摩耶分教会 太田 金 政

大教会の月次祭に引き続き、翌22日には。ご本部、婦人会長、ご臨席のもと盛大なる婦人会総会が催されました。老人も若い人も遠近を厭わず100余の人々が集い、お勤めに続き講話と、熱心に拝聴しておられました。現代に見られる、親子の間、又は、一般社会思想心情が乱れていることの、憂いを、訴え、ひながたを尊重し、陽気暮しの教えを広めようと言う、お話を聞いたと思います。私は、裏方なので、全てを見聞きしていたのでは無いのですが、行事の最中に出て行く人は少なく、ひのきしん現場の皆さんは熱心に、聞いていました。現代社会の物質文明の進化で人間の精神の空洞化に伴い、自己中心的で他人の痛みを解らず、生命の軽視に因る青少年の凶暴な犯罪が後を絶たない。心を病んでいる、精神構造の歪んだ、世相を深く考え、をや

ごった返す弁当配布場所の写真

様のお諭しを広め、明るい世に変える。おたすけに、必至の意を尽くす日々を通らせて頂きました。用木として自覚しました。

終会となつて、昼食の弁当100個余りを、配布することが、弁当係ひのきしんの私達8〜10人で、引換券と弁当の交換をしました。昼近くなつて始めは、だからと引き換えていましたが、後は一斉に交換が始まり、瞬時にして終わつたと言ふ有様で、忙しくも楽しいひと時でした。バザーもアトラクションも大変な賑わいで、皆の

弁当の数も半端じゃありません

顔が楽しく綻んでいた。この一連の祭典及び婦人会総会に参加させて頂き、感じたことは、震災で倒壊した教会の再建を目指して働かれる、会長・岡本先生の熱い思いと、ご苦勞を、貧者の一灯ながら支援させて頂きたいと願いました。この乱れた世代を、たて変えるために。

講堂内で飾り付けをする佐藤さんの写真

こうして、準備から片付けまで一手一つにつとめられた婦人会総会も、婦人会長様のご機嫌麗しく大過なく終了いたしました。

目に見えぬ準備と片付け

Leaders Mini-Essay 心の通ひ路

これからの布教形態を考える

東水島分教会長 藤 本 芳 久

先日、本部月次祭時、神殿で親しくして頂いている教会長さんに声を掛けられた。その方は陽気誌本年四月号のコピーを持っておられ、「この記事もう読んだか」と私に聞いてこられた。「私は何事かと思ひ読んだ記事の内容はつぎの通りであった。」

著者は六十歳代の静岡県教会長さん。その内容は、これからの布教形態の一提案として、昨今右肩上がりですべて普及しつつあるインターネットを利用し、「悩みの相談室」を開設したというものであった。

この相談室の特徴は、あらかじめ悩み事を想定し、これを文書化し、それに簡単な回答を付けたものを一件とし、それを五十件弱ホームページに登録されており、さらに悩み相談をしたい人は、電子メールで質問をし、それに対しそれぞれ回答をするというものである。その内容は未信者にも理解しやすくするため天理教用語を極力使っていないというものであった。さらに驚いたのは、インターネットという性格上、全

国（世界各国？）より問い合わせがあるため、アクセスしてきた人を、未信者は最寄りの教会へ、教内の人は所属教会へ連絡し丹精して頂くというシステムを取っていることである。

このホームページへのアクセス数（問い合わせ件数）は、平成十一年六月の開設より一年間で三千数百件、一日当たり約十件とかなりの数になる。

現在、天理教関係者のホームページは数多くあるが、そのほとんどが一方通行的な呼びかけが多いように思うが、著者のホームページはさらに一歩進んで、「インターネット悩み相談」という新たな布教形態の方向を示唆しているように思う。

現在、笠岡大教会では、「百万軒にいがけ」が実施され、私も上級の百万軒にいがけ担当者として、「誰が読んでもわかりやすく、実行しやすく、そして、配布するようばくも実行しやすい内容」をモットーに、いろいろな所から原稿を集め、時にはインターネットを利用し原稿を探し、にいがけチラシを作成しております。そして自教会に帰り、声を掛けさせて頂きながら配布しておりますが、チラシは取って頂けるが、お話となるとお断りという家庭が多いように思います。

このような現状を見る時、我々若い教会長からでもこれからの新しい布教形態を模索していく必要があるのではと思う昨今です。

生まれ更りを信じて

大江橋分教会 福田布教所長

村川 文 夫

結婚して三年目の半ば、妻が突然心の病の身上を頂いた。それまで子宝には恵まれなかったが、幸せに暮らしていたはずだった。

妻は、私によく尽くしてくれていたし、隣近所の奥さん方とも仲良くやっていたように見えたので、突然の身上の原因が分からなかった。

その時から早や三十二年が経過したが、妻は相変わらず入院を繰り返している。この間前半の二十二年間、我が身の因縁を悟り切れなまま二人で身上の快癒に努めてきた。薬の服用は勿論のこと、日中の寂しさを紛わせるために、妻は民芸品を集め、観葉植物を育て、コースグループに入るなどを試みた。また、二人で旅行したり身上回復後の生活を話し合ったりした。さらにお道の上では、妻がおさづけの理を戴き、家には社をお祀りした。そして、二十二年目の十月六日、医師より「病気が快癒した」という診断を頂いた。家路に急ぐ二人の気持ちは、この上なく嬉しいものだった。

ところが、家に帰って一休みした後から妻の身上が再発した。「私をこんな病気にしたのは誰々のせいだ。私の人生を返してくれ」これまでの思いが一気に爆破し始めたのである。それまでは、身上がありながらも楽しく過ごした期

五月月次祭祭文

これの笠岡大教会の神床にお鎮まり下さいます 親神天理王命の御前に 会長 上原理一 慎しんで申し上げます

親神様には「このさきハせかいぢううハ一れつに よろづたがいなたすけするなら」「月日にもその心をばうけとりて どんなたすけもするとをもゑよ」と 只力を見せて人々をひれ伏せさせるのではなく 親の理を見て 人々の一列兄弟の理を自覚めさせてお互いが助け合う姿を築き合うことよって 真に陽氣ぐらしを実現させようと 教祖を通して ます親がお通り下されて たすけの道をお示し下さいました 以来 親を慕い一列兄弟として 助け合う人々が 弥増したすけ道場としての教会名称の理のお許しを戴いて 今日有りますことは 誠に有難い事と喜ばせて頂いております

この道にお引き寄せ頂き 親子との認識を新たにさせて頂いた私共は 教会を芯に日々かしまのかりものの御礼を申し上げると共に 届かぬながらも 精一杯親孝心の心を深めて たすけ一条の上に邁進させて頂いております その中に今日の吉日は お許し戴いた五月の月次祭を執り行う日柄でございますので 只今からおつとめ奉仕者一同心を一つに睦び合わせて 明るく陽氣に勇んで座りづとめてをどりをつとめさせて頂きま

す 御前には青葉若葉も目に眩しいと 喜び心一つに寄り集いました道の子供達が 相共にお歌に唱和し 日頃のご高恩に改めて御礼申し上げる状態をご覧下さいまして 親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます

又 今月は 直轄巡教を実施させて頂き「つとめに専心」「百万軒をいがけ」「陽氣ぐらし講座開催」の実践項目の再確認をさせて頂き 今一度心を新たに勤めることを誓い合わせて頂きました この三項目の実践を通して 論議に込められたよふぼく一人々々のたすけ一条の実動との思いに添いきる所存でございます

更には又 婦人会が明日の総会に向け 三年千日定めて成人の歩みを進めてまいりましたように 笠岡全体としても 来年の創立百十周年記念祭に向け お互い 合力で成人の歩みを進めさせて頂いております 記念祭には お互いの成人を喜び合えるよう より一層たすけ一条の上に邁進させて頂く覚悟でございます 何卒 親神様には 世界一列を助けたいとの親心を我が心として 親孝心一筋に歩む皆の真実の心をお受け取り下さいます 万たすけの上に自由の御守護を賜り お望み下さる陽氣ぐらしの世の状に一日も早くお導き下さいますよう 一同と共に慎んでお願い申し上げます

間が結構あったのであるが...。これ以後、毎日毎夜、妻から不平不満を聞くこととなったのである。

翌年の一月、信仰仲間の助言を受け入れて妻が勇んで修養科に入学した。しかし、一週間しかもたなかった。妻の迎いの席で教養係の先生のご助言——妻の因縁ではなく私の因縁である——を受け、二人で修養科に入ることを決意した。幸いにも、同期の方々の誠実の支えによつて、妻はかろうじて卒業することが出来た。そしてこの三ヶ月間は、まさしく私自身の修養の期間であった。人の心の温さは言うに及ばず、我が家我が身の因縁の深さを心底まで悟らせて頂いた。

その年の秋、妻は検定講習を修了したが、不平不満の気持ちは治らず、それ以後も入退院を繰り返して九年目を迎えている。私の我が身思案も万策つき、一年半前に、ついに、布教所の開設に至った。

私を今日まで生きながらえさせてきた支えは、「生まれ更りと因縁の通り返し」の教えであった。人が生き続ける上で、これ程良い教えは無いし、もつと早目に悟っていれば...

と思うこの頃である。
。いつまで信心したとしても
陽気づくめであるほどに
(五下り目5)



学生層育成講習会

日 時	7月21日 大教会7月月次祭 祭典講話として
講 師	寺 田 裕 司 先生 (本部学生担当委員会育成部長・ 本部直属綱島分教会後継者)
対 象	教会長・よふぼく
内 容	ビデオテープによる学生会活動の 紹介と講話

「陽気ぐらし講座」 開催予定

開催日	教会名	会場名	講師名	芸能者
6月28日	芦田川	芦田川分教会	伊藤道友	
	安那	安那分教会	〃	
	芦常	芦常分教会	〃	
	福廣	福廣分教会	藤原晃雄	滝沢てるみ
	福勇	福勇分教会	〃	〃
29日	三郡	三郡分教会	伊藤道友	
	芦辺	今岡老人クラブ	〃	
	廣町	廣町分教会	藤原晃雄	滝沢てるみ
	福芦	福芦分教会	〃	〃
7月1日	大恵山	三島さん宅	京塚 貢	上島彩子
	香地華	山野農事センター	〃	〃
2日	坪生	坪生ふれあいプラザ	〃	〃
	御野	上御領中組公民館	〃	〃
	真金	木之子町東郷公民館	〃	〃
19日	油木	百楽荘	山内宣暁	
23日	芦品	芦陽布教所	〃	
		中村昭雄さん宅	〃	



母が出直して間もなく一年になる。教務にかまけて、我が家の庭園もいつしかジャングルになってしまった。一年祭を前に一念発起、パソコンジム(事務)で疲れた頭を休めるために、領土に蔓延る雑草を根絶やしにし、雑木を素っ裸にした。

主のいない植木鉢の下には、ムカデ・ナメクジ・ハサミムシとマルムシの山。雑草を根刮ぎ掘り起こすと、ミミズや大きな虫の幼虫が到るところから発掘された。家内が見たら卒倒しそうな光景だが、私も随分御無沙汰だった。

毎朝、起き抜けには、神床に我が顔を映し、二本の棒を振り回したかと思えば、何十軒という家門の小さな箱穴を目指して挙動不審な人物になる。電気の箱は独り言をいつのかと思えば、こちらも相槌を打ったり文句を言ったり…。マルムシとも御無沙汰だなあ… などと思いを巡らしながら抜く草はよく抜けた。